

第3回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年7月30日（木） 午後1時30分～午後4時00分

場 所：新宮市民会館大会議室

【出席委員】

堀内委員、川口委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、丹羽委員、勢古委員、向井委員、上路委員、片山委員（順不同）

【欠席委員】

関委員

【事務局】

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、小林主事、篠原主事

<会議次第1. 前回打合せ内容の確認>

設計者より、資料1に基づき前回会議の打合せ内容を確認

質疑・意見特になし。

<会議次第2. 配置・平面計画について>

設計者より、資料2に基づき配置・平面計画について説明

【設計者】

前回の委員会・ワークショップを受け、図書館機能で図書館棟と熊野学棟をつなげ、熊野学関連機能を熊野学棟に集約し、熊野学センターのセンター機能を向上させるとともに、施設全体の回遊性を向上させた。

車両動線に関しては接道している場所と周辺の交通条件から動線の整理を行った。

分棟配置でつくすることで、まちにひらかれた施設づくりを行うことができる。

【委員】

プロポーザル案では熊野ひろばを元に3つの建物をつなげる案だったが、コンセプトが変わったのか。

【設計者】

もともと十字の「道」と「広場」で各棟をつなぐ案だったので、「広場」は屋内化したが、根本的なコンセプトは変わっていない。

【委員】

プロポーザル案からの変更点を明確にして欲しい。

【設計者】

プロポーザル案では小ホールやホワイエを利用した企画展の開催を考えていたが、常設展を行う場所が必要であるとの意見を受けたため、熊野ひろばという展示スペースを設け、収蔵・展示機能の強化を行った。また「木と食のフロア」を市民活動ゾーンに移動、スタジオをホール棟に移動、カフェを図書館棟に移動、といった変更を行った。多少の面積の変化はあるが、機能で無くしたものはない。

【委員】

スタジオをホワイエに配置することで、小ホールとホワイエの連携性を断っていないか。

【設計者】

配置に関しては今後検討していくが、市民利用ゾーンを小さく区画できる案とした。過大なランニングコストをかけずに、市民利用ゾーンの開館時間を延長できる利点がある。

【委員】

熊野学と図書館が離れてしまって書庫の共有などが難しいのではないか。

【委員長】

前回までは上下の関係であったが、今回案では2階部分に平面的につながっているので連帯性は問題ないのではないか。

【委員】

熊野ひろばを屋内化する意味は何か。

【委員】

展示をするスペースとして、熊野ひろばは狭くないか。

【設計者】

まとまった展示に使えるスペースとして屋内の熊野ひろばを計画した。面積は500㎡程度あり、熊野古道センターの展示室よりも広いスペースを確保している。

【委員】

道の回遊性の要であったひろばはなくなったのか。

【設計者】

熊野学棟南側にプロポーザル案と同等レベルの大きさのひろばを確保している。

【委員】

熊野学機能を1箇所に集約し、より専門性を高めることは良いことである。また、ホワイエ等で企画展示を行なう場合、収蔵物を外気に触れさせて運び出すことになるので現実的ではない。集約された今回案は機能上的にも良いと思う。

【委員】

屋外のひろばと屋内のひろばを連携させた展示も考えられる。

【委員】

熊野学棟：熊野ひろば、図書館棟：ラウンジ、ホール：ホワイエ・スタジオ といったように交流の場が分散している様に感じられる。1つにまとめることで様々な交流が生まれるのではないか。

【設計者】

交流が分散しているという点に対して、ワークショップで観光客が使うところと市民が使うところが混在していて使いづらいという意見があったのを受け、市民活動ゾーンを1箇所に集約し、整理を行っ

た。

【委員】

ホール棟と図書館+熊野学棟の2棟案はないのか。

【委員】

屋外のひろばの広さはどの程度か。また、どのような機能を持つのか。

【設計者】

1000㎡程度ある。安全性を考慮していきなり道路になるのではなく、ある程度の引きが必要である。また、祭りや屋台など屋内では制約のかかる活動も行うことができる場所として機能する。

【委員】

現在の配置計画では駐車場から熊野学棟まで距離が遠い。

【委員】

市民活動ゾーンは日影率が高いのではないか。

【設計者】

庇を設け、雨に濡れないでアクセスできる場所として整備する。スタジオを外に向けて開き、賑わいや活動が創出するようなデザインを計画すれば暗いイメージにはならない。また、できるだけ光が入る計画を検討する。

【委員】

屋外広場は計画性を持って作らないと駐車場として使われてしまう可能性がある。

【設計者】

施設の顔となる場所なので前庭としてきちんと整備する。

【委員長】

分棟案にすることでどの程度コストメリットがあるのか。

【設計者】

分棟にすることで1割程度建設費が安価となると考えられる。

【委員】

本来、図書館機能も熊野学機能も全く別の学問であるため、分散型の方が実務的であり、むしろ複合・機能の共有化をしていく為には利用・運営、学芸員の育成等をしっかりと考えていかなければならない。

【委員】

東の敷地を駐車場にするのはどうか。

【設計者】

200台の駐車スペースを確保するには4階建ての駐車場が必要となる。近隣への影響や施設の正面となる場所が駐車場になること、新宮城への景観を考えると好ましくない。

観光的要素としてまちなかを回遊するというコンセプトがある。川下りの船着場との連動や新宮城二の丸の復元・大手道の整備計画等の様々な将来的な計画を踏まえると、今回の敷地は、まちの回遊性に寄与する重要な場所であると考えられる。そういった場所が駐車場となるよりも、熊野学棟を作った方がよいのではないか。

また、現在は2つの車両動線を計画しているので船町東取手町線側が渋滞するようであるなら運用で選択・規制し、下本町谷王子町線側のみ使用することもできる。

【委員】

駐車場はまちなかに分散してあるものを使用し、まちなかを歩いてくる計画とすることでまちの活性化につながるのではないかと。駐車場は 200 台なくてもよいのではないかと。

【委員】

川下り等のことを考慮しての施設配置であるなら賛成である。

【委員】

観光客よりも日々使う市民の利用勝手に重きを置いた計画にするべきである。

【委員】

熊野学棟の位置は、元々八幡神社があったところで、その手前側には二ノ丸の御殿があった。現在の市の駐車場の入口は広小路という軍隊の集結の場所で、防火帯であった。現市民会館は西村伊作の設計した文化会館があった場所である。その前の広場は西村伊作が入口空間として作った空間であり、そういった歴史を尊重して大切にしていきたい。この場所の持つ歴史的価値もしっかりと考えていきたい。

【委員】

基本計画の中に図書館と郷土資料の書庫の共同管理・運営がうたわれているが、分棟案では難しいのではないかと。

【設計者】

書籍に関しては図書館棟の閉架書庫で、書籍以外の歴史的価値を持つ資料（古文書等）は熊野学棟で収蔵・保管する計画である。2階の熊野学アーカイブではそれらの副本を公開・展示する提案となっている。

【委員長】

次回委員会において、分棟形式・配置計画（熊野学棟・駐車場位置）について決をとる。設計者は3棟案・2棟案のメリット・デメリットを検討資料として提示・送付すること。

<会議次第 3. 市民ワークショップについて>

設計者より、資料 3-1、資料 3-2 に基づき市民ワークショップについて説明

【設計者】

参加者は 24 名だった。次回は若い人も参加するように声掛けを行っていきたい。

熊野学が「わかりにくい」という意見と同時に「重要だ」という意見があった。

【委員】

今回のワークショップの特徴は切りこんだ内容であったことだが、少々切り込み過ぎた印象を受けた。

【設計者】

熊野学・図書館に関しては関心が深い人が見受けられるのでそこを切り口に全体に広げていきたい。

【設計者】

これまで施設を使わなかった人が、どうやったら使うようになるかという視点が重要である。

【設計者】

長い間存在する建物を計画するにあたって揺ぎ無い物差しは「歴史」である。この場所が地域にとつ

て大切な場所であるということ意識して今回議論となった正面性や配置計画を考えて欲しい。

【設計者】

単棟にこだわって階層が重なっていた方が、階ごとに切れてしまって逆につながりが希薄に感じられる。平面的な広がりを持っている現在の案の方が使いやすいのではないかと。

<会議次第 4. その他>

【委員】

分離発注をすれば多くの企業が参入できると同時に工事にタイムラグができ、会館の使用期間を延ばすことができないかと。

【事務局】

次回第4回基本設計等検討委員会は 8/21（金）西別館 3 階会議室にて行う。

<閉会>